「7．あなたの現在の悩はなんですか
率直に御記入下さい。
両親が何時迄も丈夫で
生活苦も無く身体に
無理をせず働かなくても
生きる事が出来ますのが
望しい事。」

（調査用紙より抜萃）

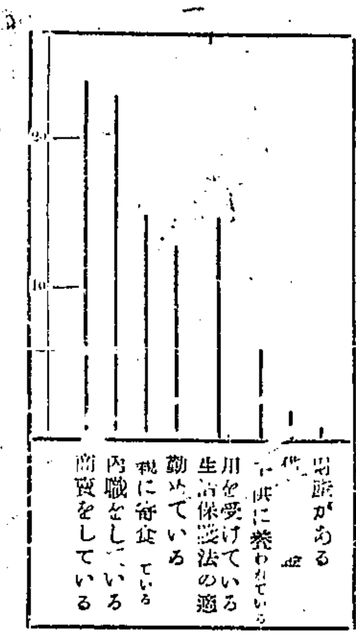
人間の誰もが生きてゆくには多かれ少かれ悩みを有つのは当然である。物質面の生活を取上げて見ただけでも、殆どの人が誰も生活が楽だとは言わない。苦しい、苦しいと喘いでいる。末亡人の場合それは一層深刻である。か細い女の手一つで生活を維持してゆくには非常な困難と忍耐を代償として支拂われば ならない。彼女等は頼みとする夫を失い、その精神的衝撃も一入なのである。しかも現実は容赦なく非情の鞭を振つて背負する。生活の望みを、育ちゆく子等に託して生きている彼女等に温い救いの手と、同情を示してやられればならぬ。それが社会人としての義務であり、眞のヒューマニズムの実践であると確信する。

實態調査
末亡人の輿論をきく

末亡人を対象として行つた今回の調査はその原因が自然死、戦争死、離婚たるを問わず調査用紙を配布した。幸ひに末亡人の方々の理解と協力により九八枚中回收率は七五・五%の良成績、回收内譯は離別の原因中、戦争死五二%、自然死四三%、離婚五%。年齢別二〇才〜三〇才一三%、三一才〜四〇才四九%、四一才〜五〇才三八%であり。調査事項は第一項より第七項までそれについての答を得たものである。

一、何で生活を立てゝいるか

生活費の問題は実に深刻である。商売を営む人も、内職をしている人も殆ど苦しいと訴えている。生活費は最少限に切り詰めているのだろうが矢張り掛るものは掛るのだ。生活保護法の適用を受けたにしろ、保護費だけでは喰うや、喰わずの日常を送らねばならぬ程の微々たるもの、商売を営むにしろ資本はなし、資本があつても余りにも利益が少ない。又、内職の方もとても莘道いらしい。一日精々二〇円から五〇円が関の山、尤もこれは丸一日内職に掛り切り、子供の世話も、針仕事も犠牲にしての話なんだから驚く。女の体ちや五〇円が精一杯で、四、五日も続けやうものなら無理が生じ病に臥れねばならぬだろう。

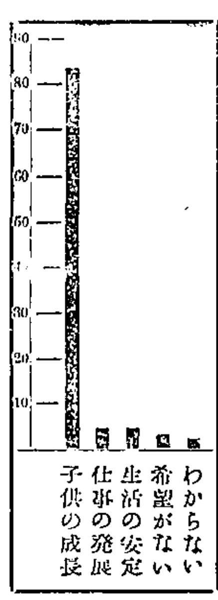


右の内譯は「内職をしている」二〇才代四〇%、三〇才代一八%、四〇才代八%、「商売をしている」二〇才代〇、三〇才代三三%、四〇才代四%で、内職が若い人に多い割合を占めているのに対し、商売をしている人は年齢の増すに従い、高いパーセントを示している。これは若い人が世変りの法に疎く、最も手取り早い内職を求め、年齢が増るに従い、体驗を積んだ内職よりも商賣の方が利益が多いと云う處世哲学を得、年齢と比例して「商賣」が占めたのではないだろうか。末亡人の将来の生活の指針を示しているもので「末亡人は如何に收入を得るか」と云う問題の答でもあり、注目すべきことと思う。各年齢層をならし、平均したパーセントをもつものは「生活保護法」の適用を受けているもののみで「親に寄食している」二〇才代三〇%、三〇才・四〇才代は各七、八%に止まり「勤めている」二〇才代一〇%、三〇才代七%、四〇才代二二%であつた。

しかし、いづれも生活の窮状を訴え、現在の生活を「辛い」と答えたもの七八%で大部分が苦しんでいる。インフレ、金詰りの今日その深刻さは一層加り、稼いでも、稼いでも追い付けぬ生活に疲労し切つた悲しい告白である。又、「辛くない」と答えたもの二%「何とも云いない」二〇%であつた。

二、何をたのみに生きているか

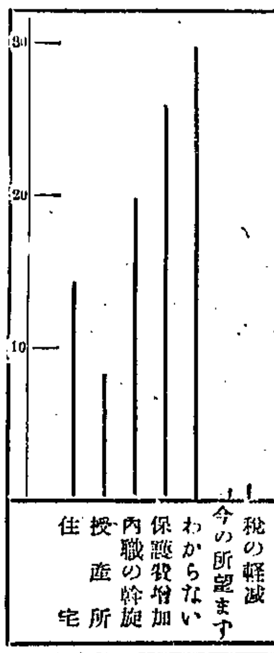
では彼女等は一体何に望みをつないで生きているのだろうか。



この内譯は「子供の成長」二〇才代一〇〇%、三〇才代八一%、四〇才代七五%となつている。生活が如何に苦しく、辛くともそれに耐え、ひたすら子の成長のみを頼みとして生きてゆく彼女等、勿論、子を憶う親心は全ての親が抱く愛情に相違ないが、末亡人の場合それが一入であり、全ての努力がそれに捧げられていると云つても過言ではない。子に恥しい思いをさせたくないと、苦しい財布の紐を解いて発育費に当てる温い心。町から支給される余りにも些少な教育費ではとても足りない。子の健やかに育つ祈りか踏みにじられてしまう。それが如何に切ないものであるかを識つてもらいたい。そしてそうさせないようにしてやれるだけの援助を差し延べてやつて然るべきだ。「生活の安定をたのみ」にと云う人は大部分が内職、商賣を營む人であり、女の手一本で生活を支えることの難しさ、経済上の過重から逃れて女は女相応の仕事を希んでいるのではないだろうか。「仕事の発展」をたのみとする人も同様なことが云える。しかし、こゝで最も悲しく感じさせられることは、「希望を失つた」人が三〇才代四%、四〇才代三%と僅かではあるがいることである。そこで斯う訴える。（原文のまま）「現在病気に一番悩んでいます」「生活の安定がつかぬので常に前途が悲しい」と。これは決して看過出来ぬ問題であり、人間が希望を失うと云うことがどんなに恐ろしいことであるか。兎に角強力な救済施策によつて「希望」を與えてやれるやうな処置によつてこれ等の人を救い、その責が拗くとも現代の社会全体にあるのだと云うことを認識してもらいたい。勿論、或は細々ながら親子で睦まじく暮している末亡人もあろう。しかし現在の社会保障制度の貧困さでは、なお苦悩と疲労が要求されている。より大きな救いを與えてこそ、社会全体が明るく美しくなるのだ。

三、如何なる保護救済施策を望むか

然らば、未亡人は如何なる保護救済施策を望んでいるのだろうか。



「わからない」が二一%で最多。次が「保護費の増加」で内職は二〇才代三〇%、三〇才代一八%、四〇才代三一%である。現在一人当平均保護費一二〇〇円米代が漸く、副食費も衣服の修繕費も出ない有様。更に現行の保護法では保護費の枠があつて自分で働いた收入があつた場合それだけ保護費から差引かれ、働いても働かないでも收入の枠は同じ、しかも、その枠が米代がやつとと云うのだから、不合理極りない。もつと保護費を増し、又働いた分に対してもこの不合理な保護法の緩和があつてもよいのじやないだろうか。

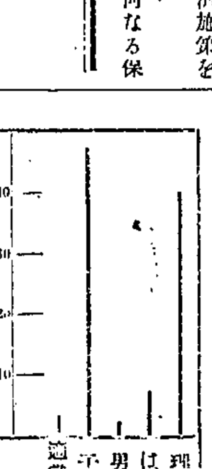
「内職のあつせん」は二〇歳代三〇%、三〇才代二一%、四〇才代八%と第一問の「内職」と同じく年齢と反比例してその希望が減じている。これ等の人は一応勤めなり商賣をもつている人であり、僅かでも收入を余計にしたい、勤め又は商賣ではとてもやり切れないのだと云うことを語つている。新潟の未亡人会では造花内しよくをあつせんして一応の成果を収め、又市當局でも未亡人会に内職資金として三〇万円貸出等積極的に強力な救済活動を続けている。白根の町でも何か適當な内職をあつせんしてやるなり、又既に内職を與える事業者の方へも協力を求め未亡人に対して割のよい恩典を與えてやる等を積極的に活動してもらいたい。一日五〇円ではどう考えても無理、女の手で八、九〇から百円の收入が上るような内職を見つけてやつたら喜ばれるだろう。

次が住宅問題だが終戦後七年を経るもまだ全國的課題として残されている。幸い当町は母子寮の完成を見、表面上はそれが緩和されたかの如くであるが種々の事情で入寮出来ぬ人も多数あるのではないだろうか。四疊半と六疊の二種の室では狭過ぎると云う観がなきにしもあらずせめて六疊の室数をもつと余計にしてもらいたかつたと云うのが本音だろうと思う。

「授産所」の希望は案に相違して少く一〇%に止る。斯うやつて生活の矢面に立ち、生きている彼女等は何も遊びたいのでも楽をしたいのでもない。少しでも收入が得たい。働きたいと云う眞摯な叫びがあるのだ。にもかかわらず現下の社会、経済状勢では口を潤すのがやつと、明日の米が、子供の学用品がと、病床に臥すときふと幻となつて悩まされればならぬのだ。だからこの保護救済活動には町も、町民も温い心で積極的に働きかけてもらいたいと思ふ。

四、再婚について

再婚の気持の有無については「ない」が七八%で壓到的。「わからない」二一%「ある」一%「ない」の内譯は二〇才代六〇%、三〇才代八六%、四〇才代八三%。理由は殆ど「子供が可哀相だから」と云う。これは子供のある場合実に難しい問題である。何故なら、それは彼女だけの意志の問題でなく、子供に束縛された意志によつて決定を俟たねばならないからだ。そして相手の性格、生活能力等々非常に廣範圍な多くの問題を含んでいる。と云つてそれに見向きもしない高踏的態度も又許されるべきではない。生活が苦しければ苦しい程それを看過してはならない。只現在の社会通念に拘束されて「マ、コイチメ」を過大視し恐怖しているのではないだろうか。尤もこの社会通念なるものが現在も屡々横行しているかもしれない。結局男性の限りない愛情と温い理解の保證のない限り彼女等は再婚も斷念するより他に仕様がないだろう。しかしこの根底に障害となつているのは男性の特理能力就中経済力でありその故に女の連れ子は白眼視されているのではないだろうか。



「わからない」と答えた人の内譯は二〇才代四〇%、三〇才代四〇才代各一四%となり、理由は九八%「理由なし」による。これ等の人は恐らく「ある」と答えたものと思う。只遠慮して斯う答いたのではないだろうか。勿論中には本当に迷つている人もあるかもしれないが……。「ある」と敢然として答えた者一%「適當な相手がない」と假に「わからない」人を再婚の意志が「ある」としたとしても「ない」人の半数にも満たない勘定になる。未亡人は再婚について精神的な引け目を感じるだろう。しかしこのハンデキヤツプ故に屈してはいけない。相互間の深い温い理解によつて生活の再建を計るべきである。

結論

以上種々の角度から未亡人の生態のアウト・ラインを描いてきた。彼女等は肩身を狭くして世の中の一角に生きている。勿論人間である以上人並に暮し生きてゆきたいだろうがその希いも現実に儚く消えて、悲惨な佗しさしか彼女等には與えられていない。彼女等は救われたいのだ否救つてやられればならぬ。社会人としての義務。それが認識され、実践されてこそ彼女等未亡人の義務が果されるのではないだろうか。最後に「**あなたの現在一番の悩みはなんですか**」と云う問に対して答えて頂いた感想を原文のまま記載して諸兄姉の御理解を乞いたい。

註　①年齢　②離別の原因

①二〇才〜三〇才　②自然死
「私には子供が二人おります。一人は四才、一人は一才、思ふやうに仕事も出來ず、そうかといつても主人は九ケ月もねて死んだので金は一錢も残さず死んでいつたのです。どうけんやくしても月二千円はかかります。町より千円ばかりいただきますと千円を何とかして働かなければくらして行く事が出來ません。よい内職をおねがい致します」

①二〇才〜三〇才　②戦争死
「私の夫は戦争が元で家に帰り後病気の為去られたのですが、戦争犠牲は大きかつた。社会の目は冷く國家も今少し温き手を充分にさしのべられること。世は不景気の折柄一番苦しみは税であります。私は少しの田圃に依つて子供を養い来ていますが税が軽ければ今少しまだまだと思ふ点もあります」

(1)三一才〜四〇才　(2)戦争死
「病気のため働らかれないで、借金がかへされないで困つて居ります。商賣して居りましても今は大した收入もない所、子供のがくひがあまりにも毎日多くいるので、この先前途が案じられます」

(1)三一才〜四〇才　(2)自然死
「勤めの関係上朝早く夜おそいのでろくろく子供の事をみてやれないことです」

(1)三一才〜四〇才　(2)戦争死、
「人員整理の対象となる事です。自己による仕事の実際のない限り整理の対象にならぬやう法的に現在の地位を安定させて頂きたい。世間一般の人のやつていることでも、私達にはすぐ世間の非難を受ける。私達はいつも未亡人として私達の生活の一挙一動を監視され、特別の目で見られているやうです。社会の人達がもつと廣い気持で大きい目で私達を見て頂きたいことです」

(1)四一才〜五〇才、(2)自然死
「子供が学校を下つても働く所が無く、今の所悩んでおります」

(1)四一歳〜五〇歳　(2)戦争死
「金がほしい。特殊の力でなくして下さい。力のない私達にどなたか一番入用であるのにどなたでもあいてになつて下さいません。なんとかしてすくいの手を待つています。」